

山名・山域	八ヶ岳連峰南部 硫黄岳
山行目的	春山を楽しむ
山行期間	2016年4月29日～30日（一泊二日）
参加者	2名

ルート、コースタイム

29日 1300 美濃戸口—1340 美濃戸—1545 赤岳鉱泉

30日 630 鉱泉幕営地—809 松の木の頭—840 硫黄岳頂上（旧ロボット雨量計）—1025 赤岳鉱泉

山行記録（記録性を重視し、天候、コースの状況・特徴、注意点、必要になった用具など）

29日 久しぶりの美濃戸は連休初日にも関わらず「牧歌的なのんびりした雰囲気」で閑散としている。

今日はテントを張るだけなのでゆっくり歩いて北沢沿いの登山道に入る。雪は無い。

何回か渡渉を繰り返し、見覚えのある樹林帯を抜け幕営地の赤岳鉱泉に着く。

何組かのパーティが宴会モードで騒いでいる。我々も早速ザックから荷を取り出して雰囲気に溶け込む。

昨年より気温は確実に低い。風も冷たく、明け方は氷点下になりそうだ。

30日 寒い朝だ。支度をして硫黄岳を目指す。登山道に雪が現れ、まづい事に凍ってアイスバーン状だ。

大昔、会でアイスクライミング合宿をしたジョーゴ沢を右に分ける。ゴーゴーと流水が音をたてている（地球温暖化のせいかな？）。樹林帯の中の登山道が九十九折状に変わり、急登に行く。

ノーアイゼンでだましまし歩く。暫くすると周囲が明るくなり稜線が見え隠れする。直ぐに松の木の頭だ。何人かの登山者と会話を交わす。ここからは最後の登りで岩場を抜け、のっぺりとした硫黄岳頂上に着く。折からのピーカンで360度大パノラマを満喫する。八ヶ岳連峰を南と北に分ける稜線なので素晴らしい景色を提供してくれる。遠く南アルプスも雪を被って輝いている。ただ風は冷たく「凍傷」のリスクも感じる。長居は無用と下山を開始する。アイゼンを付けサクサクと登山道を下る。

赤岳鉱泉に戻り撤収する。往路を美濃戸口まで戻り、風呂に入る。「よく歩きました」・・充実した満足の時間帯だ。予定より早く茅野まで戻り、タイミング良く「はまかいじ」に間にあう。

車窓から北の空に不気味な一枚雲が急速に広がっていくのを見る。「北アルプス」の荒天の兆しだったのか。こちらは今年も天候に恵まれ「春山」を楽しむことができた。相方と留守宅に感謝 感謝。

以上

